

N・S・ソーンタックおよびT・N・
ダルマーディカーリ出版

タイツティリーヤ・サンヒター

辻 直四郎

一九五一年にサーヤナの注釈を伴うリグ・ヴェーダ・サンヒターの大出版を完了し、一九五八年以来、「シユラウタ祭全書」の出版を継続しているブナーのヴァイディカ・サンシヨードナ・マンダラは、ここに黒ヤジュル・ヴェーダの中心的文献タイツティリーヤ・サンヒターの本文にパダ・パータならびにパッタ・パースカラ・ミシユラとサーヤナとの注釈を添え、その第一冊を世に送った。この計画の発端は一九四四年にさかのぼるといい、種々な原因による困難を克服し、長期にわたる周到な準備を経て、今この大規模な刊行が開始されたことは、インド学ことにヴェーダ研究のため慶賀に堪えない。

タイツティリーヤ・サンヒターはA・ウエーバーによる本文の模範的出版(一八七二・七二年)とA・B・キースの英訳(一九一四年)とにより、一般に利用され、専門家特に祭式に関心をもつ者はサーヤナ釈を参考とし、またこれより古いパッタ・パースカラの注釈をひもといた。サーヤナ釈はカル

批評と紹介 辻

カッタ (Bibl Indica, 1855—1899) およびブナー (Ānanda-śrama, 1900—1908) で刊行され、パッタ・パースカラ釈もフインソール (Bibl. Sanskrita, 1894—88. ただし第四篇に対する部分を欠く) で出版されていた。いずれもその当時としては尊敬すべき業績であつたが、現在のヴェーダ学界の要請を満たすに足らず、かつ入手も容易でなくなつた今日、多数の写本校合の基礎の上に、両注釈の信頼すべき原文を一書に収めて刊行する企図がようやく緒についたことは、時宜をえたものである。

本出版の目的は主として両注釈を批判的に出版するにあると思われる。新たに多数の写本が使用され、サーヤナ釈のためには、南印文字の写本が校合され、引用の出典を明記し、利用者のためにあらゆる努力が払われている。ただしサンヒターとパダ・パータとのテキストのため、写本のほか主として伝統的暗誦 (the traditional oral recitation) に頼つたと述べていることは注目し値いする (Introd. p. X 参照)。従来すでに両注釈に親しんだ者には周知の事実であるが、パッタ・パースカラとサーヤナの注釈はおのおの特徴をもち、前者は簡略を旨とし、語義・文法の説明に重きを置くが、祭式との関連事項には詳しくないのを常とする。これに対し後者は祭式の経過・規定を詳細に記述するが、文法的説明には多くの関心を示さない。従つて両注釈はたがい長短を補いあう関

係であり、ここに両者を合せ読む意義がある (Introd. p. VI—VII; Keith: *The Veda of the Black Yajus School*, pt. 1, p. CLXXIV—V 参照)。

ヴェーダ祭式を専門としない人にこの間の消息を具体的に示すため、冒頭の *Vanttra isē tvorjē* (= *tvā, urjē*) *tvā* (Hil. a ed. Weber)「栄養のために汝を、滋力のために汝を」に對する両注釈を例とする。ハッタ・ハースカラはわずか十行 (p. 12, 3—12) の中に、このマントラの用途 (*vinīyoga*)、即ち新月祭においてサーンナーヤ (*sānārya* 牛乳と酸乳とを混じた供物) の献供を伴う場合、アドヴァリウ祭官が仔牛を牝牛から引離すための枝を切るときに用いることを簡単に述べ、或る人々はこのマントラを二分し、後半 (*urjē tvā*) を枝の曲りの矯正等の際に用いることを附言し (ただしアーパスタンブ・シユラウタ・スートラー・一・一—一を引用して) 語根 *is, urj-* の意義、造語法 (*kvip-pratyah*) を規定し、第四格の意 (fārtarthyē *catvurthi, the final dative*)、格語尾 *マツヤ* の *マツ* の *ヤ* の *ムン* (*vibhakter udātātavam*) を説明し、動詞 *ア* の *ア* *āchinadmi* 「われは切る」を補うべきことを挙げてゐる。これに對しサーヤナの注は、細い活字によつて印刷されつゝ四十四行 (p. 12, 13—p. 14, 19) にわたつてゐる。マントラの用途、ことに二分して使用する際の規定を典拠を引いて説明し、語

義に触れたのち、パラーシヤ樹 (*palāśa* = *parna*) の枝を用いる点を強調し、スバルナ伝説等の神話を援用してその起原・効能を細説し、タイッティリーヤ・サンヒターおよびブラーフマナ、アイタレーヤ・ブラーフマナ、バウダーヤナおよびアーパスタンブ・シユラウタ・スートラならびにミーマーンサー・スートラからの引用を含んでいる。

今回公刊された第一冊は、タイッティリーヤ・サンヒター第一篇・第一—四卷 (: ed. Weber, p. 1—55) を含み、マイソール版ハッタ・ハースカラ積第二冊一二八頁まで、アーナンダーシユラマ版サーヤナ積七一八頁までに相當する。今後に残された部分は非常に多い。この原典の重要性にかんがみ、第一冊に示された学術的および印刷技術上の水準を保ちつゝ、この大出版があまり遠くない将来に完成されることを希望する。

(*Taittirya Saṁhitā, with the Padapāṭha and the commentaries of Bṛhīa Bhaskara Mīśra and Śyaṅgārīya. Vol. I (Kāṇḍa I Prapāṭhaka 1—4). Edited by N. S. Sonakṭe [and] T. N. Dharmadhikari. XXI, 667 pp., Vaidika Saṁśodhana Maṅḍala, Poona 1970.*)